

受賞団体のコメント

★大賞 高知県須崎市

すさき手帖は、「決して背伸びをしない、押し付けがましくない、人の優しさが伝わるもの」を基本コンセプトに作成しました。

一人の30代の女性が「すさき手帖」片手に須崎を旅する。来月から仕事で須崎に滞在することになった年下の彼氏のために、旅で知った須崎の細かな情報を付箋とマーカーでメモしていく。そんなちょっとした物語を想像して作り上げた手帖です。

「PR 下手な須崎市が作ったちょっとレトロな観光手帖」に貼られた彼女の付箋は、作り手以外の言葉として、この手帖をサポートしてくれる大きな役割を果たしてくれたと思います。

さて、冊子内でただ一つ「PR 下手な須崎」が満を持して切ったコピー。「食には絶対自信があるき。魚は旨いに決まっちゃう。」この冊子で、少なくとも「魚の旨い須崎」と「優しい須崎」が伝われば何よりです。このような大変光栄な賞をいただき、本当にありがとうございました。

★優秀賞 静岡県下田市

パンフレットを作成するにあたり、下田の魅力を、下田を知らない方にも伝えるため、文章を読ませる従来型のパンフレットではなく、視覚的に印象付けるものにしたいと考えました。

そのために写真素材を5年以上専属のカメラマンが撮りためたものから厳選しました。

そして、下田の最大の魅力となる美しい海をメインとし、そこから繋がる「温泉」「食」「歴史」「イベント」「自然美」「観光施設」などを取り上げ、下田の観光素材の豊富さを余すことなく視覚化することに重点を置きました。

これにより、子どもからお年寄りまで誰もが楽しめる観光パンフレットになりました。今回の受賞を励みに、毎年改良を重ねながら、最高のパンフレットを作成していきたいと思います。

★優秀賞 佐賀県武雄市

テーマは「武雄に来たくなるフォトブック」!

誌面のほとんどを写真で構成し、言葉ではなくインパクトのあるビジュアルで訴えました。市内のあちこち取材して周るたびに、僕らの知らなかった武雄の魅力を見つけてことができ、ワクワクしながら作成にあたりました。

武雄の歴史・文化から始まり、現在、未来へとつながる・・・武雄市の魅力が凝縮された一冊です。表紙・裏表紙は武雄市のシンボルである朱塗りの武雄温泉楼門を撮影し、朱色を全面に出しました。数あるパンフレットの中で、いかにこの“武雄”を手にとってもらえるかを考慮した結果です。

2015年、武雄温泉楼門は100周年を迎えます。パンフレットを片手に、武雄の魅力に触れてみませんか。

★楓 千里賞 鹿児島県宇検村

『I ラブ宇検村』このパンフレットを作成するにあたり、本村の若手職員7名(うちIターン者4名・Uターン者2名)と奄美群島の若手デザインプロジェクトチーム(Shall we Design)のメンバーがタックを組み、村内全14集落をくまなく歩き回り、気になるものの写真を集め、ワークショップを開く作業を繰り返しました。集落(シマ)の日常・風景を新たな視点でとらえ『ハート降るシマ』としてPRしたパンフレットとなっております。

沢山の人々が手にとって、『宇検村に行ってみよう』と欲していたら嬉しいです。

★パッケン賞 宮崎県五ヶ瀬町

「五つの季節がある町」五ヶ瀬町

宮崎県の端、九州のほぼ真ん中に位置する自然豊かな山間の町、五ヶ瀬町。全国に名が通った観光地でもない。名産品やグルメがあるわけではない。でも、何にも侵されない自然があります。人情味あふれた町民の笑顔があります。

これらの空気感を、写真と言葉で表現して下さったのが映像ディレクターの丹修一さんです。しだれ桜が咲き誇る春。お茶香る夏。紅葉色づく秋。白銀に輝く冬。四季がはっきりしているからこそ、季節と季節のあいだのもう一つ季節が心地よく感じます。皆さんにとってのもう一つの季節を、ぜひ五ヶ瀬町に来て肌で感じてください。今回の受賞誠にありがとうございました。

★マッケン賞 熊本県天草広域本部

比較的低い山と海岸線が接近した天草・宇土半島の、変化に富んだ地形を活かした気軽な散策やウォーキングと、地元の口コミによるご当地スイーツ、食、温泉を、山ガール(女性)にターゲットを絞って提案するためのガイドブックを作成しました。天草・宇土半島地域(上天草市、天草市、苓北町、宇土市、宇城市及び県)が一体となって、観光や食の魅力を情報発信するものです。今回、「マッケン賞」をいただき、大変ありがとうございました。

★理事長賞 長野県小川村

「村の人たちにとっては当たり前の暮らしの中に土地ならではの魅力がある。」そこに気付いたのはパンフレットの制作に企画検討委員として携わった大沢綾子さんです。結婚を機に平成 23 年春から村内で暮らす大沢さんを中心に取材を重ね、半年以上の製作期間をかけ平成 25 年夏に誕生したこのパンフレットは大変好評いただいております。今までのパンフレットとはガラッと変わり、副題の「暮らす、村。」とあるように、読んでいくにつれ村の暮らしがよく見えてきます。その結果、小川村へ行ってみたい、小川村で人と自然を感じてみたいと思えるパンフレットになりました。「観光パンフレットというより、読み物、写真の絵本にしたかった」と話す大沢さんのおりどなたが手にとっても最後まで楽しめるパンフレットとなりました。同時に誕生した「信州小川村 案内マップ」とこの「信州小川村 案内手帖」を手には是非一度小川村を散策しにいらしてください。

★特別賞 福島県国見町

住んでいる私たちには「ある」のが当たり前で気付かない「国見のたからもの」、少しだけ視点を変えることを風の人に教えてもらいました。そして、私たちの町にも素敵なたからものがあることをお伝えしたくて「食べたい」をカタログにしました。

女性がカフェや旅先で手にしても「おしゃれ」で、そっと持ち帰っていただけるパンフレットを目指して、表紙は黒に銀箔押しで高級感を、指紋が付かない紙で清潔感を演出しています。

一枚いちまいの写真を女性職員に見てもらい感想を聞きながらセレクト。瑞々しさが無い。彩が欲しいなど散々な結果に。…想いを形にできたことに感謝しています。

特別賞の受賞を大変うれしく思っています。ありがとうございました。